

平成18年度病害虫発生予報第5号

長崎県病害虫防除所長

【気象（平成18年8月11日発表 1か月予報 福岡管区气象台）】

九州北部地方では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。にわか雨や雷雨の日もあるでしょう。

気温は平年並か高いでしょう。降水量と日照時間はいずれも平年並でしょう。週別の気温は、1週目は高く、2週目と3～4週目はいずれも平年並でしょう。

要素別確率 単位（％）

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	40	40
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

* 予報対象地域：九州北部地域

平成18年度病害虫発生予報第5号

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
普通期水稲	いもち病（穂いもち） 紋枯病 トビイロウンカ コブノメイガ 穂吸汁性カメムシ類	- やや少 並 並 並	やや少 並 やや多 並 やや多
大豆	ハスモンヨトウ(防除情報第8号)	やや多	やや多
いちご	うどんこ病 炭疽病（注意報第7号継続） 輪斑病 ハダニ類 アブラムシ類	やや少 やや多 多 並 少	やや少 多 多 並 少
かんきつ	かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ	やや多 やや少 並 並	やや多 やや少 やや多 並
びわ	がんしゅ病 ナシヒメシンクイ	やや多 やや多	やや多 やや多
果樹共通	カメムシ類	やや多	並
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	やや少 並 並 並 やや少 並 並	やや少 並 並 並 やや少 並 並

【発生予報】 本文の()内は平年値

普通期水稻

1. いもち病(穂いもち)

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(114筆)の結果、葉いもちの発病株率は0.0%(1.7%)、発生圃場率は4.4%(18.6%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発病株率2.3%)。

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(114筆)の結果、発生株率は1.2%(2.8%)、発生圃場率は23.7%(28.3%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発病株率は5.0%(5.4%)であった。

ウ 向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されており本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 粉剤及び液剤は株元に十分薬剤が付着するよう丁寧に散布する。

イ 前年発生が多かった圃場では特に発生に注意する。

3. トビイロウンカ

(1) 予報内容

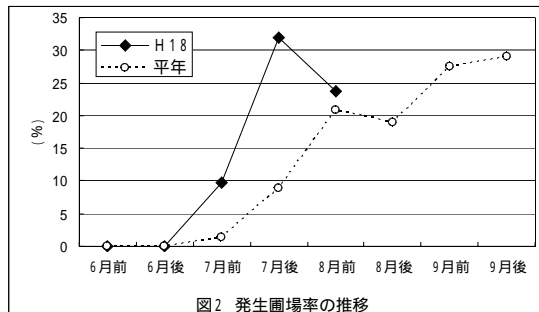
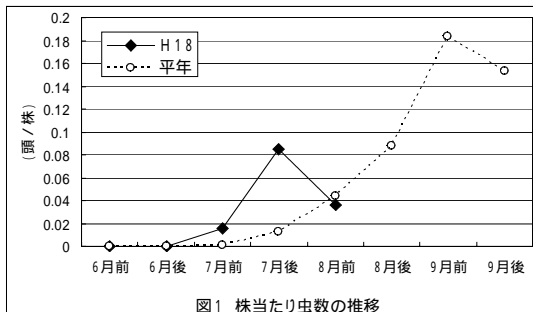
発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(114筆)の結果、株当たり虫数は0.04頭(0.04頭)、発生圃場率は23.7%(20.9%)であった(図1、2)。なお、株当たり成・幼虫数が0.2頭を超える圃場も114筆中6筆認められ、発生状況のばらつきが大きかった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、株当たり虫数は0.36頭(0.37頭)であった。

ウ 向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されており、本虫の発生に好適である。



(3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫の発生は圃場間や同一圃場内でも偏りがあるので圃場の見回りを徹底し、できるだけ圃場全体の発生状況の把握に努め必要に応じて防除を行う。8月下旬の要防除水準は1株当たり短翅型雌成虫数が1頭である。

イ 防除を実施した圃場においてもその後の発生状況に十分注意する。

ウ 本虫は株元を好んで寄生するので薬剤散布は株元に薬剤が十分に付着するよう丁寧に行う。

4. コブノメイガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(114筆)の結果、食害株率は14.2%(17.4%)、発生圃場率は88.6%(80.2%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、食害株率は44.0%(40.5%)であった。

5. 穂吸汁性カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬のイネ科雑草における捕虫網によるすくい取り調査(36地点)の結果、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシ類の虫数は平年並かやや少なかったが、アカスジカスミカメは平年より多かった(表)。発生地点率はシラホシカメムシ類が平年よりやや低い以外は平年並であった(表)。

イ 向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されており本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア カメムシ類の飛来・増殖源であるイネ科雑草除去等の圃場環境整備に努めるが、水稻の出穂10日前以降の除草はカメムシ類の圃場内への侵入を助長するので避ける。

イ 水田への飛来が多くなる夕方に薬剤散布を行うと効果が高い。

ウ 飛来源である圃場周辺のイネ科雑草地も含めて広域一斉防除を行うと効果が高い。

表 イネ科雑草でのすくい取り調査における虫数の推移(8月上旬)

種類名	10回すくい取りあたり虫数						発生地点率	
	H14	H15	H16	H17	平年値	H18	平年値	H18
ホソハリカメムシ	1.3	0.7	1.3	1.8	2.6	1.9	79.3	70.3
クモヘリカメムシ	1.5	0.4	0.7	0.4	1.6	1.3	47.3	43.2
シラホシカメムシ類	1.5	0.7	0.9	0.4	1.3	0.7	56.8	40.5
アカスジカスミカメ	5.4	6.6	5.5	7.0	9.8	16.6	67.7	62.2
計	9.7	8.4	8.4	9.6	15.3	20.5	88.8	81.1

注) 虫数の平年値はH8~17年の最大・小値を除いた平均値
発生地点率の平年値はH13~17年の平均値

大豆

ハスモンヨトウ

平成18年8月16日付け、病害虫発生予察防除情報第8号による

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発生を認めなかった(発生圃場率5.1%、発病株率0.2%)。

2. 炭疽病

平成18年7月28日付け、病害虫発生予察注意報第7号を継続

(1) 予報内容

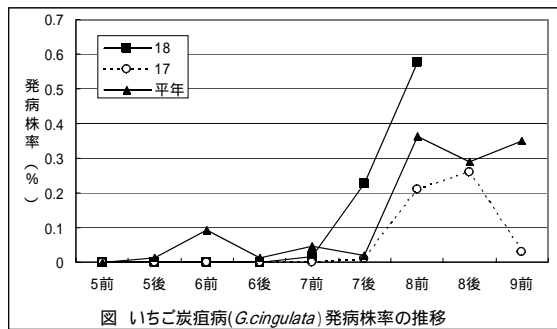
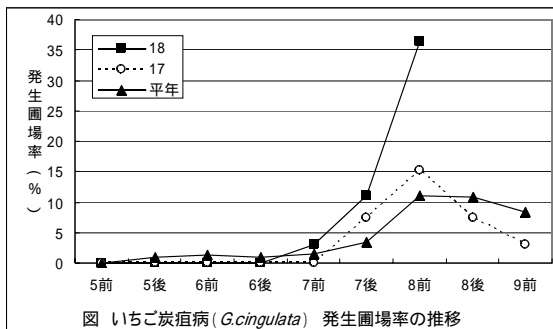
発生程度 多

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、*G.cingulata*による炭疽病は発病株率は0.6%(0.4%)、発生圃場率は36.4%(11.1%)であった。

*C.acutatum*による炭疽病(通称:葉枯炭疽病)は発病株率は0.2%(0.8%)、発生圃場率は15.2%(12.3%)であった。

イ 巡回調査で、炭疽病(*G.cingulata*)の感染による汚斑状病斑の発生が、多くの発生圃場で認められており、今後、立枯れ・萎凋症が拡大する可能性がある。



3. 輪斑病

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は10.9%(2.1%)、発生圃場率は72.7%(14.4%)であった。

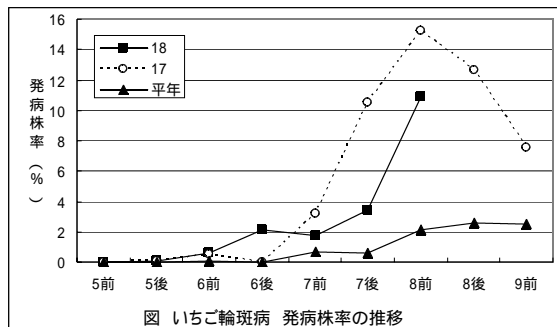
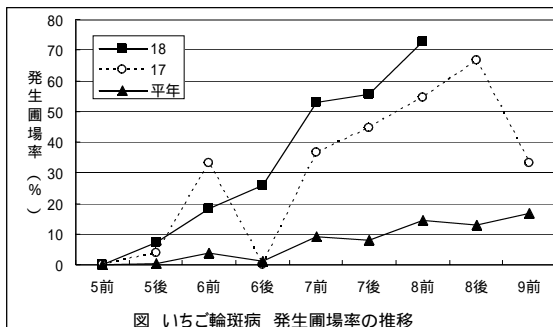
(3) 防除上注意すべき事項

ア 被害葉は伝染源となるため栽培上支障のない範囲で除去し、圃場外へ持ち出す。

イ 発生程度がひどい圃場では薬剤散布する。

ウ 肥料不足は発病を助長するので注意する。

エ 過湿条件も発病を助長するので、下葉を取り除き通風をよくする。



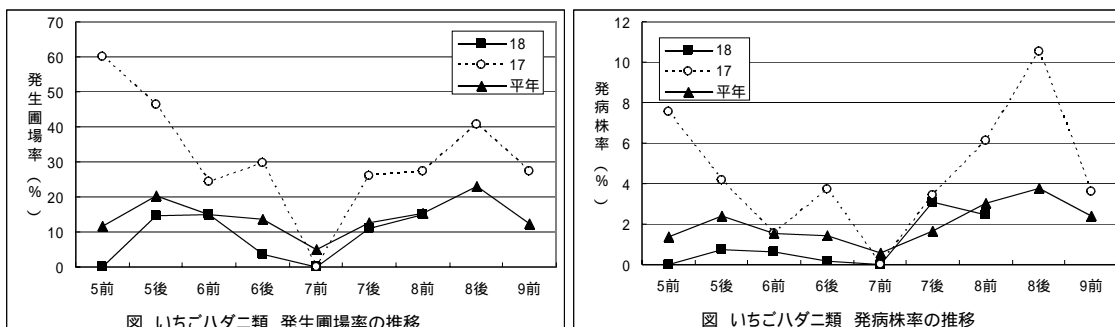
4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、寄生株率は2.5%(3.0%)、発生圃場率は15.2%(15.3%)であった。



5. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率1.4%、発生圃場率13.7%)。

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病葉率は0.9%(0.6%)、発生圃場率は33.3%(14.8%)、発病果率は1.0%(0.3%)、発生圃場率は15.4%(6.7%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

今後、台風の襲来時に急速に被害が拡大する可能性があるため、薬剤を散布する場合は、必ず台風接近前に薬剤を散布する。

2. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病果率は5.2%(9.6%)、発生圃場率は38.5%(45.2%)であった。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

- ア 8月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は12.5%(15.0%)、発生圃場率は56.4%(58.9%)であった。
- イ 本年はカメムシ類の発生が多く、合成ピレスロイド剤が平年より多く散布されている。そのためと思われるハダニの発生の増加が見られ、今後もその傾向は続くと思われる。

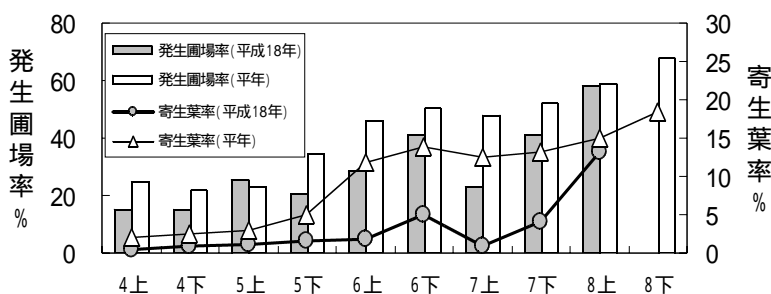


図 ミカンハダニの発生状況

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 圃場内のハダニ密度に注意し、寄生葉率が30～40%に達する前に防除する。
- イ 薬剤散布にあたっては、かけむらがないように十分量を散布する。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一薬剤は年1回の使用にとどめる。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 8月上旬の巡回調査(39筆)の結果、果頂部の被害果率は1.4%(0.6%)、発生圃場率は23.1%(8.8%)であった。
- イ 県予察圃場(諫早市)での黄色粘着トラップの誘殺量は平年より少なく推移している(図)。

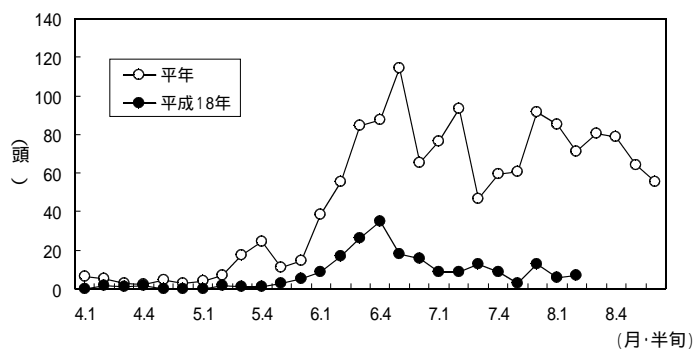


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況(諫早:黄色粘着トラップ)
平年は平成8～17年の平均

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 下表の予測発生ピーク日からその5日程度前までに薬剤散布をすると防除効果が高い。
- イ ただし、発生が多い圃場では1果当たりの寄生虫数が、0.3～0.5頭に達する前に防除を行う。
- ウ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらの発生にも注意する。

表 チャノキイロアザミウマ発生予測プログラムによる発生ピーク

地区名	多良見 元船	長与 吉無田	西彼 大串	諫早 川内	大村 小路口	佐世保 早岐	国見 神代	北有馬 馬谷川
第6世代	8/26	8/25	8/31	8/23	8/26	8/28	8/23	8/21
第7世代	9/14	9/13	9/22	9/10	9/14	9/17	9/10	9/8

注1: 発生ピーク日は各地区の選果場がある地点で算出している。
注2: プログラムに使用する気温データには、ながさき農林業情報システム500mメッシュを利用。

注3：同一地区内でも標高や土地条件で発生ピーク日が異なるので注意する。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は12.0%(4.4%)、発生圃場率は100%(58.3%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア がんしゅ病菌は剪定や芽かき後の傷口から感染するため、剪定や芽かき後に薬剤による防除を行う。また、芽かきはできるだけ芽が小さいときに行い、5～6cmに伸長した芽の芽かきを行う場合は剪定バサミを使用し、傷口をきれいにする。
- イ ナシヒメシンクイの食入跡から感染が拡大するので、がんしゅ病の防除と同時にナシヒメシンクイの防除も行う。
- ウ 幹に病斑がある場合は罹病部を削り取り、薬剤を塗布して傷口を保護する。
- エ 本病は台風などによる強風雨によって感染が助長されるので、台風接近前に薬剤の散布を行い、感染の拡大を防ぐ。

2. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(寄生枝葉率0.1%、発生圃場率6.7%)。

イ フェロモントラップ(諫早市)での誘殺量は平年よりやや多く推移している(図)。

(3) 防除上注意すべき事項

食入口ががんしゅ病の感染拡大の要因となるので、がんしゅ病と同時に防除する。

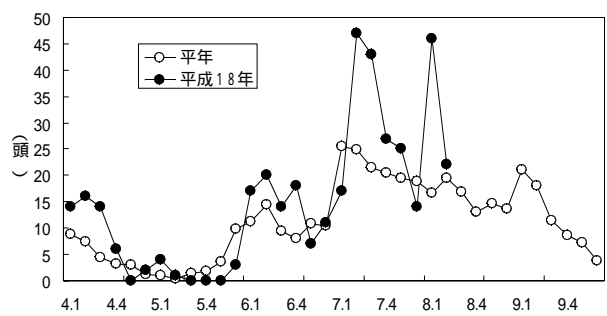


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況(諫早:フェロモントラップ) (月・半月)
平年値は平成8～17年の平均

果樹共通

カメムシ類

(1) 予報内容

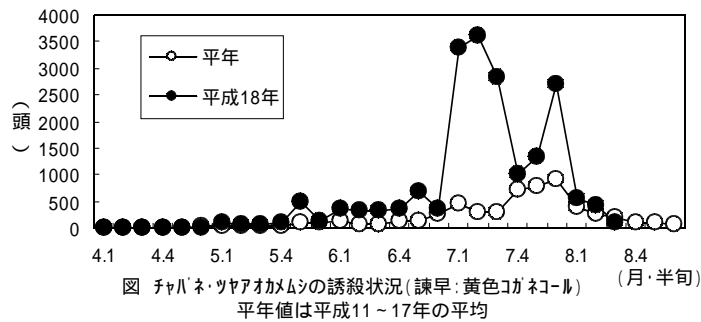
発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 越冬世代成虫の発生は終息に向かっている(図)。

イ 6月下旬に実施した、ヒノキきゅう果着生状況調査(県内14地域、ヒノキピーティング調査地周辺での達観調査)では、平年並の着生量であった。

ウ (社)長崎県医師会が春季に実施しているスギ・ヒノキの花粉飛散数調査の結果、スギの花粉数1696個(平年 1387個)、ヒノキの花粉数415個(平年 400個)であった。なお、花粉数は県内8カ所の平均値である。



(3) 防除上注意すべき事項

- ア 当年世代成虫の果樹園への飛来時期は、下表のとおり予測される。
- イ 飛来量や飛来時期は同一地域内でも園によって異なる場合があるので、園をこまめに見回り、早期発見・早期防除に努める。
- ウ 今年は5月以降長期間に渡って発生が多く、薬剤の使用回数が多くなっているの
で、過去の薬剤散布履歴を十分に確認し、使用回数の限度を超えないよう注意する。
また、使用期間にも注意する。

表 各地域の果樹園への予測飛来日

地域名	口針鞘数	予測飛来日	地域名	口針鞘数	予測飛来日
長与町岡	4.0	9月4日	東彼杵町赤木	2.2	9月11日
時津町子々川	1.6	9月13日	佐世保市針尾	2.6	9月9日
西彼町小迎	0.8	9月16日	佐世保市宮	5.1	9月1日
西海町木場	1.4	9月13日	瑞穂町伊福	3.5	9月10日
多良見町東園	10.6	8月12日	国見町百花台	5.6	9月2日
諫早市長田	1.9	9月12日	有家町新切	2.8	9月12日
大村市今村	7.6	8月23日	北有馬町田平	2.7	9月13日

注1 7月27~31日に各地域5カ所(1カ所20果)を調査した。
注2 1果当たりの口針鞘数が25を超えるとカメムシはヒノキきゅう果から離脱する。
注3 予測は福岡県農業総合試験場が作成した予測式を利用した。

茶

1. 炭疽病

- (1) 予報内容
発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠
8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり発病葉数は0.6枚(5.3枚)、発生圃場率は50.0%(68.0%)であった。

2. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容
発生程度 並
- (2) 予報の根拠
8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイに5回×4カ所)は11.1頭(15.8頭)、発生圃場率は65.0%(70.3%)であった。

3. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たりの巻葉数は0.1枚(0.3枚)、発生圃場率は20.0%(14.6%)であった。

イ フェロモントラップでの誘殺量(東彼杵茶業支場調査)は平年並で推移している(図)。

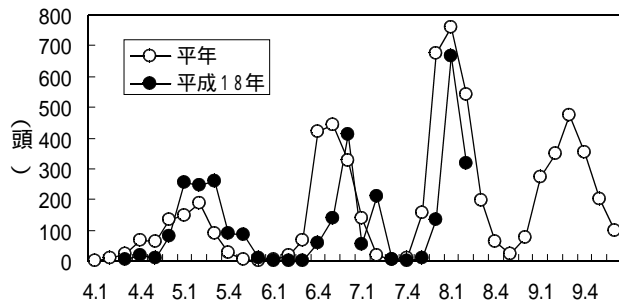


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)(月・半月)
平年は平成13年~17年の平均値

4. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたりの巻葉数は0.1枚(0.8枚)、発生圃場率は15.0%(14.7%)であった。

イ フェロモントラップでの誘殺量(東彼杵茶業支場調査)は平年並で推移している(図)。

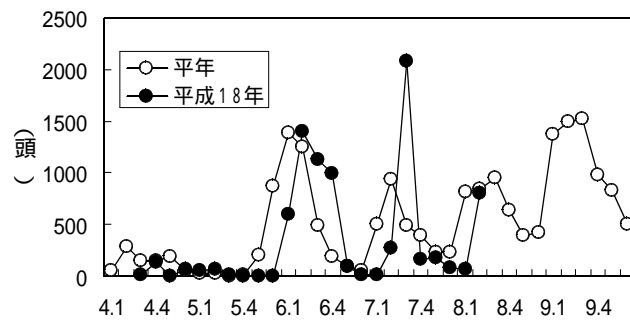


図 チャノホソガの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)(月・半月)
平年値は平成13年~17年の平均値

5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(寄生葉率 0.2%、発生圃場率 6.9%)。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイに5回×4カ所)は0.9頭(1.0頭)、発生圃場率は45.0%(36.6%)であった。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は4.7%(5.9%)、発生圃場率は40.0%(25.8%)であった。